

日本ビジネス中国語学会  
公開講演会・シンポジウム

2008年10月26日  
於：大阪中国語学院

「私の辛い通訳体験」

広部久美子

駆け出しのサラリーマン時代から、現在までの通訳体験の失敗談です。  
数々の失敗にもめげず、今も通訳の勉強中ながら機会があれば引き受けています。

学校を卒業したばかりで商社で働いていた生意気盛りの頃、中国の紡織品会社の代表団が当時私が勤務していた会社に来られ、通訳をさせられることになりました。

中国側の挨拶を必死で通訳したつもりですが、ずいぶん抜けているところがあり、随行で同席されていた戸毛先生に補っていただき助かった！と思ったことがあります。もう30年以上も前のことです。

私は、商社では縫製機械の中国向け輸出が担当でしたので中国各地に売り込みに行っていました。この場合は内容がよく分かっており、商売人の売り買いの通訳ですからたいして複雑なものはありませんでしたが、売り込むためによく技術交流会を開き、中国各地を巡業しました。そこで困ったことは、当時中国にない機械は、中国語でどう言えばよいかということでした。結局、自分で命名しました。例えば服の接着心地を貼り付ける Fusing Press は、粘合機 貼り合わせると言う意味から。

滴下式蒸気アイロン 掛瓶式蒸気熨斗 “掛瓶” というのは病院の点滴ビンのことです。

プレス機 燙衣機 服をアイロンプレスするという意味から。

延反機 拉布機 布地を引っ張ってのばすことから。

これらの言葉は現在でも中国において普及して使われています。あるいは元々言葉としてあったのかもしれませんが。

ところがもめ事の話し合いになると、日本側の通訳も中国側の通訳も私が担当することが、よくありました。日中双方の通訳をするので最初は双方よく分かってくれても、中国側は私が日本人であり日本側の立場で通訳すると言い、日本側である自分の

会社からは中国人の立場でものを言っていると双方からしかられていました。企業の通訳はそのままありのまま訳すと双方が気分を悪くするのです。このように思われて合意に至らないとビジネスそのものが成り立ちません。

ある時、内モンゴルのカシミヤ工場に納入した編み機の検収をすることがありましたが、何回やっても検収に合格しません。外は大変な砂埃で、窓は完全に密閉していても肝心の入り口は、毛布を重ねているだけですからどう見ても細かい砂埃が関係しているとしか思えません。検収が上がらない限り、L/C 条項で規定している10%のリテンションマネー“尾款作保”が入金されません。我々中間商社のマージンは10%も有りませんから、これに懲りてその後は商談では“先兵后礼”でリテンションマネーは絶対に5%以下に抑えるようネゴすることにしました。

その後商社冬の時代に入り、リストラ対象になるというので自分で会社を作り、中国貿易と中国語通訳翻訳をやることにしました。フリーの通訳となった訳ですので、ある程度は覚悟していたものの、会社にいたと時と違って、全く内容が分かっていないことが多く失敗が多いです。

通訳と言っても先輩方のように国際会議などの正式な通訳は無理であり、事前に準備された資料があるものしか引き受けられません。実際に私のできる範囲として会社の研修会、裁判所がメインです。

特に裁判所の通訳は企業の時と違い、そのまま訳すので楽だと思ったのですが背景がよく分かっていないので、失敗が多いです。

“养兵千日 用兵一时”

“台上三分钟 台下十年功”

で日頃から準備しているつもりでも、大失敗します。

以下が失敗例です。

## 1. 固有名詞の失敗

日中通訳者の“鬼门关”と言われていきます。

日本の地名を中国語で言われても聞き取れない。例えば大阪の “北巽 běi xùn”

人の名前が言えない。日本人の名前も中国人の名前も漢字がわからないと言えない

溝呂木社長 みぞろぎ 聞いただけでは漢字が全く頭に浮かびませんでした。

竹内なのか武内なのか、特に中国人の名前で、最近俳優などはカタカナで書かているのも困る。

本の題名が言えない。ある企業の研修会の通訳で、司会者は何を思ったのか『上海ベイビー』を読んで上海も変わりましたね！と言い出したが 《上海宝贝》とは知らずに仕方なく『上海 BABY』とごまかした。後で中国人の聴衆に聞いてみたが誰も興味ないから知らないし、小説など読む暇もないとのこと。中国では過激なので発禁処分になったとか。研修会の内容はレジュメがあるのだけれど、こんな即興が怖い。会議で司会者は突然昨年北京に行ってマリオットホテルに宿泊したことを言い出した。

マリオットホテル **Mariotto Hotel** は後で調べて中国名が「万豪酒店」と分かった。

通訳するためには、日頃からすべてのことに好奇心旺盛で博識でないといけないということです。

このような固有名詞で躓いてその後の通訳に悪い影響を与えます。

最近もメドベージェフ大統領の名前が言えませんでした。

## 2. 業界の用語に躓く

業界の人は得意になって喋ります。

できるだけ日頃から注意して、分らない時は、恥を忍んで尋ねます。

## 3. 医療用語

「医療通訳」というジャンルがあるようですが、そんな心構えもなく事前に単語を調べることもなく突然病気になり病院へ付き添いで行くことになり、恐れていた用語に躓きました。

医療相談は、“医疗咨询”と言うべきところを“跟医生商量”と言って笑われてしまい、お医者さんの質問の中に以下の医療用語が噴出しました。

アデノイド	腺样增殖体
胃カメラ	胃窥镜
人間ドック	综合性体检
超音波検査, エコー	B超
MRI	磁共振成像
バリウム	钡餐
バルーン療法	动脉扩张疗法
マンモグラフィー	乳房 X 线照相术 mammography

これも後から **Internet** で調べたので分かったのですがその場では言えませんでした。

電子辞書を持ち歩いています但し肝心の探している言葉が見つからないことが多いので新しい電子辞書を常に購入して、実力の無い部分はこのような工具（ツール）で補っ

ています。

#### 4. 色の失敗

商談では色見本とか、色カードで色を指定していたので、黄色は黄色でしたが、日常生活では黄色は要注意の色です。

「鞆の色が黄色」と答えてしまって、大失敗でした。

中国語の黄色は、**黄酒、黄头发、黄狗** とあるように黄色ではないのです。黄色から茶色まであり、茶色の方が多いです。

次に来たのが「白の携帯電話」これも白と訳して失敗、実際は銀色でした。

「次に白のサンダル」というのがあったので、まさか銀色では無いだろうと思いつつも慎重に「白っぽいサンダル」と訳しましたが、これはビニールの透明なサンダルでした。確かに“白酒”は透明ですからね。

次に出てきたのが「今年の流行は“水晶色凉鞋”」、と言われたときはもうギブアップで「水晶色のサンダル?」と訳しました、いったい何色なのかと後で聞くと「透明色」のようでした。

#### 5. 予備知識無しに全く知らないことは訳せない。

裁判所の通訳はほとんどが刑事でパチンコ、競馬、サッカー賭博の犯罪に当たったことがあります。私はどれもやったことがないので全く意味が分からないことが多くて、母語である日本語でもわからないことは 100% 訳せません。

#### 6. 親族の呼称

私の苦手な用語が親族の呼称です。中国語では父方母方を厳密にわけますから「おじさん」というのを訳さなくてはいけない時、母方か父方か叔叔、伯伯、舅舅かをよく聞かねばなりません。それでもあだ名が「おじさん」を訳すのに躊躇していると、なんと“老头”ということもありました。

下記の区別も間違いやすく、日本語が少しわかる中国人からしかられたことがあります。

小舅（母親の一番下の弟）と 小舅子（妻の弟）

小姑、小姑儿（父親の一番下の妹）と 小姑子（小姑 夫の妹）

#### 7. 特殊な造語

“捡了狗命” という言葉をよく聞きます。これは残留孤児或いはその家族達の間では共通語になっています。

“狗腿子” “走狗” “狗改不了吃屎” “狗嘴里吐不出象牙来” “狗眼看人低” “狗咬吕洞宾” など狗「犬」は中国では罵り言葉であるので、これはたぶん「ろくなものでないものを拾った」ことだと思って訳していましたが、なんと「狗命」は発音が似ているので「ゴミ」のことで、「ゴミを拾った」と言っていたのです。

“拉皮车”に乗って関空に行くというので何だろうと思っていたら「ラピート」でした。

## 8. 俗語、新語

金庫破りの被疑者に奪った大金で何に使ったのかという質問に対する答え“吃鸡”を「かしわを食べた。」と訳し、おかしいと思い“日本的鸡肉不贵吧？”と聞き返し、初めて大失敗に気づきました。この場合の“鸡”は広東語の売春婦です。あわてて訂正しましたが、このような俗語にも通じていなければなりません。その続きで、“鸭子”（アヒル）をやっていたというのがありました。“鸭子”は ホスト、ちゃんと「百度」にもありました。

テレビドラマを見ていて覚えた

●王老五（昔の映画にでてくるお嫁さんが見つからないしがない男性 >現在は“黄金王老五”>さらにもっと価値のある“钻石王老五”（華麗な独身貴族）

新しい政策ということで

●提拔无知少女（无=無党派 共産党員でない、知=インテリ 少=少数民族 女=女性 を抜擢するという方針）

●性价比 性能值 与价格之比

自動車などの商品の性能と価格を比較することから、

“上海的大学 比 留学澳门大学, 性价比好 ”と大学選択にも使われていた。

新語もいつもチェックしておかないと学生交流などの若者の通訳する時に困ります。

こういう新語は辞書では見つからないので Internet が頼りです。

本当に通訳をするためには、反応は速く且つ博識でないといけません。

とにかく失敗続きですが、懲りることなく“脸皮厚”になりつつも勉強しつつ通訳を続けてゆきたいと思っています。